＜陳述書（抜粋）＞

私は現在大学３年生です。家庭連合三世として生まれました。父方の祖父は日本統一教会の第六代会長を務めており、私の父は日本の家庭連合の初期の二世として生まれました。母は韓国人の二世です。小さい頃から父が教会の職員として働いていたので、土日はよく教会に行っていました。

小学六年生の時、韓国の家庭連合が主催するフィリピンへの語学留学に一年間行きました。信仰生活を送りながら英語を学ぶこのプログラムで大いに成長できました。その後、公立の中学に通い、バスケ部に入りました。教会が嫌いなわけではありませんでしたが、部活に打ち込んでいく中で教会への関心が薄れ、信仰も徐々になくなっていきました。中高時代は周囲が堂々と恋愛している中で、恋愛に対して葛藤を抱えることがありました。幼い頃から父のような教会の公職者になりたいという夢をもっていましたが、いつしかお金をたくさん稼ぐ仕事につきたいと考えるようになりました。

大学生になってからは、アルバイトやサークルに明け暮れていました。複雑な人間関係に悩み、いつの日か大学にいる意味がわからなくなり、自分の生きる意味を模索して苦しむことが多くなりました。そんな中、転機が訪れました。それは家庭連合が主催する南米でのボランティア活動でした。価値観が大きく変わる期間となりました。統一教会の七十代、八十代の一世信者が、身を削って日本の真裏にある南米の地を開拓し、生活する姿は非常に格好良く、ボランティアを通じて人のために生きる喜びを実感しました。また、南米の広大な自然を見て、先輩方の話を聞く中で、神様は本当に存在しているのではないかと思うようになりました。

日本に戻ってからは神様を求めるようになり、教会にも通うようになりました。また信仰に向き合う中で、両親との関係を見つめ直し、彼らの思いや愛に気づくことができました。教会の大学生部に入り、二世や三世の仲間たちと共に楽しく信仰を深めています。今とても幸せです。

教会は私にとって第二の家であり、神様を、多くの素晴らしい人たちをつなげてくださったところであり、私に生きる意味と人生の希望を与えてくれた場所でもあります。私の夢は、自分がしてもらったことと同じように、人に寄り添い、人を生かすことのできる教会長になることです。しかし、もし解散が決定すれば、その道が閉ざされてしまうかもしれません。夢を諦めなければならない可能性を考えると、本当に苦しくやりきれない気持ちでいっぱいです。

正直なところ第一審で解散の決定が出るとは全く思っておりませんでした。自分の人生を通して見てきた統一教会は、解散に至るような要件はないと信じていますし、信徒たちは多くの人々が人のために生きようと努力している、尊敬すべき方々ばかりです。今も、人を幸せにするにはどうすればよいか、日本や世界が平和になることを信じて疑わず、祈りながら考えている人たちがたくさんいます。もちろん、報道やニュースに触れる中で、この状況に至った背景には教会側にも一部責任があると感じています。ただ、過去の出来事だけに焦点を当てるのではなく、今の家庭連合の姿を見てほしいです。元信者の声だけではなく、現信者の声にも耳を傾け、公正な視点で判断していただきたいです。